

## 「アレルギーの臨床」に寄せる - 000 - 矢追インパクト療法による癌治療

【矢追インパクト療法】

東京渋谷 山脇診療所

山脇 昂

矢追インパクト療法による癌治療を私は行っておりません。否1人だけ右乳房のど真ん中に鎮座します大きな硬い固まりのある方がこの治療法しかやらないというので遣っている1例があります。1週間間隔で約10ヶ月位継続しています。鼠兎目ですが大きさが少し小さくなったかなとも思います。乳房の周囲と腋下部に転移しないようにその前で食い止める思いで遣っています。乳房の周囲は2重に遣ります。当該部皮膚温が上昇して赤くなります。当該部の温熱療法にも成っていると思います。私の知人で矢追インパクト療法(YIT)を組み入れて、Oリングテストと井穴刺絡療法と気功(気のエネルギー)を使って末期癌まで治療している先生がいる。『癌 死病にあらず されどガン』(三和書籍)の著者田中二仁(たなか・つぐひと)先生で、八王子で開業なさっています。先生は卒癌という言葉を使います。卒癌とは末期癌も含め、癌疾の治療をして、もう進展はしないと先生が判断してから5年間経過を見てつける言葉だそうです。この先生が癌の診療を主にするようになったのは、最初の出会いが私の遣っている矢追インパクト療法(YIT)です。

喘息とかアトピー性皮膚炎に遣ってみて効いた印象を持ち、血流改善と内分泌機能の向上にあると断じ、先生自身が2週間ごとにYITをうち続けている。この治療によって御年寄りの「生き」がよくなるのだ。アレルギー病が主な対象だろうが、自律神経バランスも改善されるため健康維持を目的の受診者も多い、と書いています。その後すぐにOリングテスト(BDORT)に出会いました。人間のもつ精妙な感覚を利用した検査・診断法であるが、訓練を積むことによって、格別の機械・装置を使わずとも無侵襲で高度の診断ができる。癌疾を例にとると、水銀の蓄積、アセチルコリンの低下、インターフェロンの激減、癌遺伝子抗体の出現・増加、癌テロメアの高値、健康テロメアの減少、その他の「癌の指標」を、比較資料を使って検出・定量を手指の筋力の変化によってする。病的状態の有無と局在を調

べ、薬剤の適合と量を仮想投与で決定し、さらに服用した薬剤を目的の場所に誘導する。鍼灸でいう経絡も容易で正確に検出できる、と書いています。又そのすぐ後に岩波書店から出版されている安保徹先生の『医療が病いをつくる』を読み瞠目、目からウロコだ！ 交感神経活性と顆粒球、副交感神経活性とリンパ球が連動し、井穴刺絡で自律神経バランスを修正できる、というのだ。副交感神経活動が過剰だと鬱になり、癌細胞は「異常自己」として免疫システムの標的になる。この自律神経免疫療法の研究会に入会し、福田—安保理論の福田稔医師がお茶の水で行っている診療を見学し、即実践せよ、とのことだ。ひと月、毎週出掛けて見学し、その強烈な治療も受けてみた。レーザー鍼で井穴と百会を刺激したあと、21ゲージ注射針で全身を刺しまくる！ もちろん、闇雲に突き刺すのではなく、鬱血部と乏血部との境を刺激して血液循環を促すのだが、全身が血だるまになる。苦痛も半端じゃない。そこで私は考えた。この全身射しまくりの部分を矢追インパクト療法(YIT)で置き換えてみよう。侵襲は格段に少なく血液循環改善の目的も達せられる。内分泌の賦活も自律神経バランスも正されるからだ。程なく研究会事務の担当者から連絡があり、お茶の水のクリニックが多数の受診希望者で溢れかえっている、どうしたものか。その直後から2回線の電話とファックスがフル稼働。2日間は対応に追われて仕事にならなかった。ファックスの山を見て、要望の多さに愕然、こりゃ、何が何でも始めるしかあるまい！ 胃痛にすい臓・肝・脾・後腹膜転移の男性を第1例に迎えて癌診療を開始した。以後、数々のエピソードに相まみえることになる。その後全く無縁の、むしろ胡散臭かった「気」の世界へ直ぐ入った。なにせ前進が心臓外科医である。人間機械論の最右翼なのだ。別世界あるいは異次元の話のように思いつながりもだんだん抵抗感はなくなってきたが、私は気を発するとか、気を感じるとかの感覚はなかなか得られない。「熱いものが身体に入ってきた」「大きな風船が乗っかてきた」「身体が浮き上がる」「全身にヒビ割れが走った」などと表現し、自発動で床の上を転げまわるといった現象を見、癌の指標の変化を測定してみてもやっとならぬ効果を認識することになる。そして思念のエネルギーを用いBDORTと組み合わせた迅速で苦痛のない検査で癌の診断・治療・観察のすべてを包括する診療体系である「正樹堂方式」を確立した。